

《72便、緊急着陸》 by FLEX-J Webmaster

JEA日本国際航空が、スーパーシート[△]の呼称で親しまれた国内線版の、所謂[△]クラス[△]を廃止、あらたに[△]シート[△]なる、それまでの「スーパーシート相当クラス」よりも格段にリーズナブルに提供される、アップ[△]エコノミークラス相当のシートサービスの供給を開始している。[△]国際線[△]では寧ろ[△]Fクラスの飛躍的なサービスの拡充、充実化が、[△]ナショナル・フラッグキャリア[△]に措ける「国際競争力」の強化、体質改善を図る意味からも大々的に推進されているというのにもかかわらず、である。

懷つに、日本の国内線[△]で、[△]Fクラス[△]廃止に積極的な、[△]KLM[△]だの、[△]コンチネンタル[△]の太平洋諸島線のような、幾つかの外国エアラインの庶民化展開を遙かに凌いで、[△]普通席[△]志向が強い。[△]国際線[△]では大見得を切りたがるところの見られるニッポン人をして、JEA国内線[△]にあつて、明らかに[△]階級社会[△]をイメージさせるキーワードの切り崩し。利用頻度の高い、国際線[△]では常に[△]Cクラス[△]以上を御利用頂いている高級シート乗客筋向けに御提供仕つているところの[△]プレミアム・マイレージ[△]会員[△]相手には限定的に確保されている国内線[△]VIPラウンジ[△]無償利用特権をもつてしても、機内で提供される御座席が上限で所謂アップ[△]エコノミークラス[△]な訳なのだから、そして、幾ら、競合他社には未だ[△]ス

パーシートが遺されているとは言え、VIPラウンジの廃止は共通項目。凋落著しい日本経済のメルトダウンを国内線では誰もが自認、出張経費の大幅削減、そこからさらに御座席のランクを落として差額を出張先で飲むビール代に充てたりしている姿が、臉の裏側にまで、思い浮かんでくるようですわ (苦笑)。

JIA日本国際航空では、主に国際線担当のフライトアテンダントが、月に数回、国内線のフライトに乗務することがあります。機内では、実にさまざまなお客様 ほとんどは男性。職種は、一流校の大学生、超一流名門企業勤務を含む会社員および会社役員、経営者、士の付く高額所得者の方、タレント、文化人、マスコミ関係者、官僚を含む公務員および省庁並の特殊法人職員に至るまで、多岐に涉ります から、親しく話し掛けられたり、お名刺を名刺を頂くことがあります。そうはいつても、上昇志向があまりにも強くて、未だに高度経済成長の民族意識が強い後輩スッチャーの中には、名刺ランクの低い貴兄のそれについては、ギャレー側の屑籠に次々に千切っては捨てをしてしまう向きも見られたりしているのも事実、ではありません。都区内のラグジュアリー・シティホテルのベッドの上、高級レストランでのリザーブド・シート、アップバーティストな左ハンドル車の助手席、海外服飾系を含む高級ブランド企業主催の、一流ホテル、大企業迎賓館、イベントホール、大使館、メガストアなどで開催される華やかなパーティでの虚栄的きわまりない「スッチャー同伴」、垂直方向でのフィジカルなお戯れだけが目的の(革新系を背景にしたタレント文化人知事でいまや有名な)若手流行作家辺りからの誘いは、中にはスッチャー側からすすんで連絡先を積極的に(時として、半ば強引に)手渡していたりする愛無きヴァニティ・フェアな子達の、寒々しいまでにスノッブな、初台近くの高級ギャラリー系ホテルのシートに、奔放なまでに描かれては幾重にも描き直されていく白い波状の軌跡の上の、赤裸々で恥というものを知らない熱い肉体の、あられもない姿までもが想起されてくるものですから、以前放送されていた「トレンディドラマ」やまとなでしこ」の影響ばかりとはとても言えそうにありません。己の自意識、気位にとって好ましい幸福像につながる期待に直面する以外に、ヒトという生き物はどこまででも、果てしなく、冷淡にもなれてしまうものですから。

かといって、頂戴した名刺の大半を、軽侮のこもった若い娘の軽はずみな振舞いっぽく大半を捨ててしまうような客室乗務員ばかりじゃ、ありません。入社してから実際の現場の仕事に就いて以来、頂いたすべての名刺を抜かりなくコレクションしているような客室乗務員だって、います。

勿論のこと、中には、名刺を頂くのみにあらずして、会社経由で手紙、贈り物などを頂くなどして、率直に申し上げて、忙しい時間を割いてまでホステス役をしたくなるような、交際願望をかきたててくださるような方、激務に次ぐ激務により身体を壊してしまう子までが居る程なのだから、客室乗務員に限られた自分の時間をリラクゼーションの為に割り当てたりすることはこの上なく貴重な状況にあつて、女性客室乗務員の心の琴線に訴えられてこられながら、私達とのプライベートでの癒しの時間を共有、一緒に過ごし

たくなってくるような、積極的にオフに係わり合いたくなるような殿方が、心ならずも少なめ、なのも確かなのではありませんけれど、皆様、一応の、私達のJEA日本国際航空のお客様なので、し、トップ・ビジネスマンとして、尊敬に値するだけの、一定の、ごくごく最小限度の基準くらいはクリアしておられる方じゃなければ、ビジネス・スーツにネクタイを着用され、企業の責任ある名刺をお持ちながら、東京、大阪のような巨大な都市の拠点、或いは地方都市を基点に、日本各地へと、商用でお出かけになられたりする筈がない、ではありませんか。ただし、すべての方からのお誘いにひとつひとつ乗って、遊び歩くことは、あらゆる意味から不可能であります。それだけに、名刺を下さず、すべての方々からのご好意をせめてもの容で、有難く頂戴する意味からも、頂いた名刺だけはしっかりと、一枚一枚を、私のフライトアテンダント人生のメモリアルとして、バインダータイプの名刺ホルダーに収集、整理している次第、なのです。

ひとときの夜間飛行に過ぎなってくれる乗務フライト便が、NRT（成田空港）を定刻で離陸しようとしている。ちなみに、私の好きな、関西国際空港からの発着便は、ホノルル線に関しては一切合切が、関連会社JEAウエイズによる運行になってしまっている。フライトナンバー2、日本発着のハワイ線では唯一、Fクラスの提供サービスが遺されている自社運行便。割に遅めに離日、雲海の上で機内の人になる、ちよつと、新幹線で東京から博多へ行くような感覚の、太陽を追いかけながら大いなる洋上を飛び越える、近距離国際線での乗務。ヨーロッパ線さながらの、FCY 3クラス制コンフィギュレーション。客室乗務員による緊急避難方法の実演まじりのレクチュアの後で、ジャンピングシートベルトにくくりつけられている状態。ディスプレイネーションは、そう、久しぶりの、HNL（ハワイ・オアフ島、ホノルル国際空港）、である。

今日に限っては、Fクラスの担当にならなかつたことを、天に、感謝してしまう。よりによって、この機の、Fクラスの乗客名簿のリスト上に名前のある、情人、有名な大物政治家、は、私がキャビンでミール、および、ソムリエの資格を持つ私のワイン給仕時の姿に、裸体を、スッチーの制服ごしにイメージしながら眺め、堪能するのが、好きだ。欲情の証が昂らされてしまう、などと、臆面もなく口にできてしまう、大人のなりをした困ったチャン、なのである。

それ以前に関わりあつた、在京TVキー局のゼネラル・プロデューサーは、社内の超エリートとして知られ、エスカレーター方式で下からの慶応OBの「超大物」らしく、どこか精悍な見た目に反して、思いのほか、上品、でたおやかなところのある人であり、大人の雰囲気、が刺激的なスパイスを添えていた、セックス・アピールがあつた。よかれ悪しかれ、ミーハーな喧騒、お子チャマ・レヴェルのメンタリティが横行する現代の見世物小屋特有の、不透明感のカオスが漂う、マスコミ関係者に関する一般像からは程遠い、信頼に値する印象の、人として大きな存在感の持主、魅力的なひとりの男性だつた。

ただし、お定まりのパターン。彼には妻子がいて、聞いた話では、奥様は、白百合の高校を出てから、東京女子大学を卒業、以前は競合他社の、国際線のスッチーだつたと

か。出逢いのきっかけは 慶応OBからの紹介、ディスコ 好き、軽井沢会 への出入りに インターハイ出場経験 もある テニス および スカッシュ の名手として知られていて、あの作家 との交際経験をお持ちで、現在は住民自治に目覚められて、東京都世田谷区玉川田園調布 界限では有名な女性区議にまで、なられている存在、なのでした。

JIA日本国際航空の国際線には、たとえば、フランス海外県のリゾート すなわちヌーメアおよびパペーテ行きのような、大人指向のバカンス路線が、残念ながら、存在していません。すなわちそこには、忙しい、ワーカホリック、否、それ以前に、高度デジタル文明の廃墟のような現在となつては、燦然と光輝く、昭和元禄時代の日本の経済人達に於ける名誉ある称号としての エコノミックアニマル 働き蜂な経済大国の、国策航空会社時代を彷彿とさせる「痕跡」が、しっかりと、平成の世にも、遺され続けているのかも、しれません。JIAの路線で、とりわけ戦後の昭和時代を限りなく印象づけるそれは、国内線の大阪および沖縄路線、国際線のサイパン・グアム、ホノルル、ニューヨーク、バリ島を含む東南アジア路線あたり、でありましょうか。とりわけ、定番の人气路線は、何といつても太平洋諸島線の大人気路線、グアムそしてハワイへのフライトで、あり続けています。バリ島を除けば、何ともパックス・アメリカナを具現化したような、ピルの形をした都市型の巨大リゾート島を目指す、国民的人気を誇る、高需要路線揃い、なのであります。日常的に手垢の付いた「日本語」および「JCBカード」の通用する、おなじみの民族大移動方式によるリゾート・バカンス地帯に伸びる空路の数々は、「不幸」な私達の世代が生まれ出する以前に起こった、互恵平和を前提にはしていながらも、昔の戦争時代からのメンタリテイ 「トラ・トラ・トラ」を思わせる太平洋経済戦じみた「世界進出」美学が、この国からは抜けきっていないどころか、何らの変更もなく、隠そうともせずに、再生産され続けているのです。そして、この国のエアラインに於ける特徴的な「ドル箱主義」を、かつての国策航空会社の以来の、戦後史的路線網、就航地、社風、は、実に正直に、映し出しているのです。勿論、ヨーロッパ人並に、ピュア・リゾートに精通し、実際に本格派のリゾート・ライフを謳歌されている方も、本格的にフレンチ・ワインを嗜まれる方々くらいには、いらっしやいます。それも、ごくごく一般的な庶民的なクラースの皆さんの間に、です。にしても、発着枠の問題があるにしても、この国に起こった不幸なバブル、金満ニッポン時代を経ても、結局この国のエアラインは、リゾートバカンスに関する柔軟な大人のニーズ、多様性、充足に関する供給者意識を、発達、進化させることができなかったのだと思います。ですから、真に日本のワーカホリック達が、自分の国のエアラインで、心豊かな保養、充足を満喫するための、プレシヤスなリゾートフライトのキャビンに関するお話なんて、ですから、日系エアライン業界に求められても、最初（は）から、限りなく不可能に近い、無理なオーダーシート、なのでもあります。

それだけに、普段、日頃は、恒常的に昔ながらの選挙地盤主義に根ざしながら「領民」および「後援企業」の人たちを前に選挙区行脚をしていたり、「東京都千代田区永田町および平

河町での政争にかまけながら、パーティの席での半ば公然たる最新の愛人の披露、錦の呉服がお似合いの奥様に隠れての東京クラウンホテルの客室での「息抜き」
▲本気だとしても体(てい)の良い「困い込み」を図ろうとしているに過ぎないつもの、「選挙事務所事務局長」或いは「代議士自身が経営する会社での重役」のシートに就かないかなどの「誘い文句」を、「限りなくセクシャル・ハラスメントに近い言説」を駆使しながら、エロティックで煽情的な刺激語のオン・パレードを、お世辞にも品性には満ち足りてはいない、それどころか俗悪でさえある、世相じみた世間話の節々に並べ立てたりしている、現在の年老いて尚一層油ののっている権力的な、いにしえの▲早稲田大学政経学部OBでもある情人が、意外にも二人きりの場所では「お子チャマ言葉」を好んで用いる「甘え好き」な乳児のような媚態を、海外での▲逢引スポットに、たとえばビル型リゾートのもうひとつの極地、オーストラリアのゴールドコーストならぬ、ハワイのオアフ島、しかも一日五千人も日本から押し寄せるツアー観光客でこったがえすホノルル、なおかつワイキキのオーシャンフロントにそびえる、薄桃色ながらに白亜の宮殿▲ロイヤル・ハワイアンだなんて、▲アラブ世界を牛耳る偉い王様にはこのほか人気の高い▲海外リゾートホテルのスイートルームなんぞを指定してくる御仁が示すのですから、男性なる生き物はなんといいおしく、尚且つ解りやすい人たち、なのでありましょう、だなんて、しっかりと思われてきてしまったり、いたします。世代交代が進み、地盤の継承もどこおりなく行われてきている、フィジカル年齢では四十歳半ば程の若いところのあるオジサマとは、以前に担当をした、羽田発、西の国際的玄関口、福岡空港行きの国内線、▲スーパーシートVのキャビンでお世話をした際に、秘書の方から名刺を頂いて以来、秘書の方にも「公認」の、自由民主党きつての大派閥の領袖との、いまどきの明るい▲大人のお付き合い、だったりするので、勿論、派閥の力だったり、マスコミでの知名度の高さだったり、彼が権力的にエアライン本社の上層部に顔が利くだったりするような理由でのお付き合い、ではない、ことは言う迄もなく、彼のひととなり、或いは納得のいく、意外な迄にラディカルな政治的スタンスを、思いのほか、柔軟に、彼が採りながら、見識のある、或いは心ある、大なり小なりの政策プランの実現に情熱を傾けていて、党内委員を数々歴任しながら、実際上でも美学を実現すべく政界にタッチしてきたような好感触があったからなのは、勿論間違いがないのです。男と女の間の、肉も骨も魂も分かち合うような現実の関係って、子供じみた「勲章遊び」だったり、横柄で理不尽な政界上での▲アドヴァンテージをちらつかせることで安直に獲得できるような、公然暴力的所作じゃ、ないのですから。なんと言っても、男性の魅力は、ご本人の魅力を生かした雰囲気、存在感、そして人間的側面から醸し出されてくる、心持ち、スタンス、およびフェロモンに関するセンス、感受性、所作、ライフイベント上でのセルフプロデュース力、建設力を含めた感性、そして人情的のよくな点にこそ、あるのですから。そういったことも、わからずに、徒にステータスシンボルの誇示、漫然たる権威、権力者の態度、けれんの強い自己主張、自慢、横暴でよこしまなガキ大将っばさにこそ、女を痺れさせる武器があるかのように思っているような、男と

女のことは勿論、人生に措いても、おそらく一度たりとも自分の殻を破られたことのないヒトに特有の勘違いから抜け出せずにいるような、わがままなだけの精神的未熟児に、洗練されて円熟した豊かさを知っている大人の評価に耐え得るだけの訴求的所作、大人として長けているであろう、異性に訴えかけ得る、豊かなサイン、メッセージ、アピールの発信が、可能な訳、有り得ない、のです……。

夕朝二回のミール、一回のお飲み物、そしてブランケットの機内配給、免税品のカート販売を経て、早朝到着便も存在するホノルル線の中では割に遅い到着になる乗務をあげたら、噂話好きな同僚達からの誘いをもやんわりと交わしつつ、ステイ先のアップリンス・カイウラニ・ホテルを後にして、ショッピング客の気分で乗るタクシーで、薄桃色の宮殿ロイヤル・ハワイアンズのスイートへと、赴くのだ。スケジュールは、大人の暗号だらけのシステム手帳のカレンダー・メモを参照するまでもなく、すべてが予定調和を思わせる海外フライト機中であって、脳裏で反芻されていた。

それなのに、予定とはすなわち、未定の腹積もり、にも過ぎないことを、客室乗務員のような仕事をしていると、しばしば痛感させられるものである。

気流、天候に問い合わせせて、ホノルル国際空港には、ほぼ定刻通りの到着が予定されていた、72便の機内。エマーゼンシー発生。NRTを予定時刻に離陸して、太平洋上の真上、およそ二千キロの洋上を飛行中のハプニング、であった。グアム国際空港への緊急着陸よりも、日本へとターンアラウンドして、設備の整った日本の大病院への緊急搬送が、同乗の、日本人の青年医師によって、求められた。

日本の若き外科権威は、海外の医学界でもその名前が良く知られている人物。健康的な、浅黒い肌の色、いかにもな、スポーツマンタイプ。「高級外車および軽井沢に別荘」さらには「プラチナカード」所有。「麻布台の高級高層住宅」に「単身で在住」の典型的なおぼっちゃま育ち、の殿方、なのであった。

彼の勤務先、すなわち、信濃町の大病院は心臓外科の権威として、とりわけ、知名度が高い。世界でも指折りの最新医療装置の一切が、完備されている。急性心不全であることがほぼ確実の、大物官僚の娘で、三光町の有名女子大学在学中であることも、後に判明する、若いのに洗練された急患。それでいて、大人の女からすればまだところどころに女子大生らしいあどけなさを残している卵型の美しい顔立ちに、まだまだ成長途上の段階に相応した、無分別を示す、すべてに行き届いた、長めの髪、幾分背伸びをした、一回り大人向けの女性向けライフスタイルマガジンの読者モデルとしても活躍している均整の取れたプロポーションが、そのまま、彼の患者になることを、意味していた。私の胸中は複雑だった。それはけして、今回のホノルル線での、現地ステイを中に置きながらの、往復乗務が、私自身にとってのラストフライトだったから、ではない。この後、複数の情人からの真面目な御理解初期投資を有難く得ながら、恵まれた状況での、ワイン、雑貨、ファッションのセレクトストアおよびカフェ、輸入車のガレージディーラーを含めた輸入販売業務を、代官山町を主なる拠点にしながらスタートさせる目前にあ

る自分の人生に於いて、[△]客室乗務員[▽]として飛ぶ、[△]最後のホノルル・ステイ[▽]が台無しになることは、なんぼのもので有り得ない。それがたとえ、のちに、件の[△]青年医師[▽]と[△]一流女子大在学中のお嬢様女子大生[▽]の蜜月旅行であることが判明することになって、[△]前途有る若い女子学生が、突然容態を悪化させながらも、理想的な担当医が担当医につき、[△]チーフパーサーの私を臨時のナース役にして、[△]ベテラン機長判断によるターンアラウンド飛行中にも、適時の心臓マッサージなどの緊急処置が得られたことは、経験豊かな国際線チーフパーサーの目にも「不幸中の幸い」なのであり、何にもまして、客室乗務員としても有難いこと、なのであるのだから。

ヒトは、時に、不意に襲いかかる運命の荒波に翻弄される瞬間を、避けては通れないこともある。学生生活に理解的な、社会的地位の有るご両親および心ある周囲からの溢れる愛によってはぐくまれながら、[△]ブランド好き[▽]にとっては流行の合わせ鏡のようでもあるディスプレイネーション、ホノルル行の機内での希望溢れる若々しいリラックスタイムを過ごしていたのであろう、そして今後、一般的な職業にでも就けばトーキョーでのルーティンワークに忙殺されてしまいがち、いままでよりは自由に海外旅行もできなくなるのに違いない、[△]華やかなりしモトリアム[▽]の渦中にいた二十歳そこそこの幸せな女子大生にとって、勿論、初めて日本を離れるのかもしれない、人生のもっとも輝いた青春の記念のようなナイトフライトが、彼女自身予期していなかったであろう、体調の急変によって妨げられるようにしながら、日本へと引き返すことへの痛恨、は、あつたとしても、たぶん彼女自身の中にあつても、それほど重要な問題、なのではない。それに加えて、彼女が搭乗して、彼女のためにターンアラウンドしている巨大機[△]B744[▽]は、ほかの機材(フリート)を含め、ひとたび日本へと引き返すにしても、永遠に彼女の人生の中から、消滅してしまう訳も、ない。そして万一にも、かりに、困難なバイパス手術、短くない療養生活を強いられることがあるにしても、目の前にいるドクターに接している限り、予感として、彼女は無事に現状の困難を、驚くほどに難なく跳躍していけるようにも思われてしまうからだ。

信頼される[△]若き権威[▽]の一流ドクターから詳細に及ぶ説明を受けた、すでに[△]ジャンボジェット機[▽]の総飛行時間二万時間を超える運行歴を誇り、社内教官をも務めている熟練機長の決断が、72便を、東京へと引き返そうとしている。状況に対応して、到着空港はNRTからHNDへと変更される。華僑圏のエアラインが、東京国際空港(羽田)発着により、[△]台北線[▽]および[△]ホノルル線[▽]の定期国際線を、成田開港以後にも長らく、政治問題にかこつける形で、寡占的に運行し続けていた程に、文字通り魅力的なメトロポリス・トーキョーの中核に程近い、大都市空間の中の国際空港は、沖合拡張工事の甲斐あって、念願の[△]二十四時間空港化[▽]を達成、急患を信濃町に緊急搬送する上でも、緊急車で搬送するには遠すぎる[△]ナリタ[▽]よりも有利である、この機長の機知もまた、幸せに浴してきた一人の女子大生の救命に、或いは、大きく貢献する、のかもしれない。

[△]青年医師[▽]は、ホノルルでのひさしぶりの[△]オフ[▽]を返上して、利発そうな急患に同行す

るとのことで、必死の心臓マッサージを、彼から受けた私に、彼は名刺を差し出した。表面には、若くしての^助教授^の三文字が光り、近いうちに食事でもおごりたい、などと口にしなから彼は、連絡用の携帯の番号を、名刺の裏側に、すっきりと珠玉にきらめくホワイトゴールドのマテリアルが凹凸模様によって透かし出された^フランス製紳士ゴージャスブランドの高級ボールペン^を取り出して、さざり」と記した。

私にとってのラストフライトとしての、72便は、急患および医師を降機させた羽田のスポットにて沖止めされることになり、再び、「夢のハワイ」ホノルルへ向けて、魅惑の東洋の大空間の、照明の多くがすでに夜の帳の中におとされているコンテンポラリー文明の権化の世界を背景に、東京ディパーチャーに導かれながら、美しい上昇カーブの光の光跡を、機体上での点滅によって浮かび上がらせながら、飛び立つことはなかった。72便の乗客には、都区内のホテル、もしくはタクシーの手配、および翌日の便に振り替える乗客以外に向けての正規航空券分の払い戻しが、とどこおりなく行われる。チーフパーサーとしての乗務も、これにて一切完了。真夜中のHND到着になっただけに、当の72便担当クルー、緊急連絡の一報を聞きつけて、終夜営業のお花屋さんで心のこもった小さな花束を用意してくれた親しい先輩を含めた懇意の同僚達、はたまた整備関係の居残りスタッフのそれぞれ少数を除けば、Fクラスの搭乗客であった政府要人の^情人^は、都内の「超一流ホテル」をあてがわれる形で、ひと足お先に^客室^に向かっている。からお出迎えの姿もない、なんとも静寂に満ちたフライトアテンダント人生の、「幕」。

^FIN^